

6 三重病院 ニュースレター news letter vol.293

01 「つうえん」ってどんなところ?

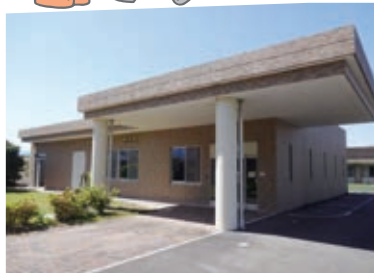
能登半島地震1.5次避難所での医療ソーシャルワーカーの支援活動

02 《医療福祉相談室》病院紹介 異動のごあいさつ やまばとギャラリー

5病棟の生活のひとコマ⁹⁰

03 2病棟の子どもたちの生活のひとコマ ご存知ですか? 専門看護師 外来からのお知らせ

04 病院からのお願い / 外来診察のご案内



「つうえん」って どんなところ?

今回は三重病院の
通所支援事業をご紹介します。

三重病院では、在宅で生活されている重症心身障害児・者および医療的ケア児(日常的に医療的ケアが必要なお子さん)を対象として、児童発達支援(未就学児)、生活介護(18歳以上)、日帰り短期入所(学齢児)のサービスを同じお部屋で提供しています。3事業を併せて通所支援事業と称していますが、院内では親しみをこめて「つうえん」と呼ばれることが多いです。

当院の「つうえん」は開設24年目に入りました。やまばと病棟(現5病棟)プレイルームで1日1名のデイケアを始めたのが平成13年4月のことです。平成15年1月には三重県より重症心身障害児(者)B型通園事業の委託を受け、同年10月には旧外来棟薬局を療育ルームに改装して、1日3名(のちに5名)のデイサービスを開始しました。以降、障害者総合支援法と児童福祉法に制度移行される平成24年3月末まで、年間延べ800名から多い年には1千名を超える重症心身障害児・者を「つうえん」で受け入れてきました。しかし総合支援法等に移行してからは、延べ利用者数、登録者数とも年々減少しています。これは地域に重症心身障害児・者を受け入れてくれるデイサービス事業所が増えてきた、というのが一番の要因です。以前は伊勢市、松阪市、伊賀市、名張市、四日市市など来院するのに結構時間のかかる利用者さんも大勢いらっしゃいましたが、現在は津市・鈴鹿市・亀山市在住の方がほとんどです。重症心身障害医療は平成10年5月に国立療養所静澄病院と統合して重症心身障害病棟が開棟してから、当院でもより一層重点を置いてきた分野ですが、重い障害のある方々もお住いの地域のデイサービスを選んで通える時代になりつつあるのだと思うと、感慨深いものがあります。

現在は経管栄養や喀痰吸引が必要な方だけでなく、人工呼吸管理や酸素投与の必要な方など濃厚な医療的ケアが必要な方を中心に、1日3名前後のご利用者で「ゆったり、ゆったり」とした支援を展開しています。日中活動で

は感覚機能の統合・賦活化をねらいとして、製作活動やスヌーズレン、ムーブメント、音楽活動、屋外活動などを行っています。製作活動では出来栄よりスタッフと一緒に作る過程を大切に、手を添えてゆっくり声をかけてお話ししながら、触ったりちぎったり感触を確かめたりできるように心がけています。できあがった作品は売店横の通路窓際に展示していますので、待ち時間等にご覧いただければと思います。

最後に、三重病院「つうえん」では新規の利用者さんを募集しています(見学も随時受け付け中)。医療的ケアの必要なお子さんの初めてのデイサービス(お出かけ先)として、短時間の母子分離体験の場として、是非ご利用ください。お問い合わせは医療福祉相談室、もしくは通所支援担当者までお願いします。



概 要	場 所	三重病院 南棟療育室(5病棟南側)
	対 象	重症心身障害児・者、医療的ケア児(つまり立ち程度まで)
	定 員	児者あわせて1日5名まで
	送 迎	片道1名(看護師同乗)※現在空きなし
	給 食	あり(胃瘻からミキサー食の注入もできます)
	入 浴	再開検討中
	リハビリ	月1回PTが実施
	スタッフ	看護師、保育士、サビ児管
	現在の登録者数	14名(4歳～46歳) うち気管切開3名、人工呼吸器(夜間のみ等含む)5名、在宅酸素9名、胃瘻12名

日 課	8:35	送迎車出発
	9:15	受け入れ開始 / 健康チェック、排泄確認、水分補給 等
	10:00	診察、朝の会、午前の活動 等
	12:00	昼食(経管栄養・食事介助)、口腔ケア
	13:00	リラクスタタイム、スヌーズレン
	14:00	水分補給、排泄確認、午後の活動 等
	15:00	家族迎え、送迎車出発
	16:30	終了



※時間延長等は個別にご相談ください

(療育指導室長/サービス管理責任者 村松 順子)